

公益財団法人日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年11月18日

氏名 (フリガナ)	橋本 早紀 (ハシモト サキ)
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2019年10月27日 (日) ~ 11月2日 (土)
所属機関名	平針記念クリニック
身分	看護師

今回の海外研修では、施設見学6件、講義を5項目受け、滞在日数5日間はとても充実していました。施設見学は主にカトリック系の病院・施設にて、様々な分野における最新医療の現場を見ることができました。宗教と医療が密接に関係していることに馴染みがなかったため、勉強になりました。尊厳死の講義では、州として可能な治療であっても、宗教観の違いから病院側から拒否され、違う病院へ紹介される事実がある事を知りました。アメリカにおいては、患者側や病院側の意見や考え方が、抑圧されることなくそのまま医療介入に反映されるという事も日本との違いだと感じました。しかし、今回訪れたオレゴン州は多様性を許容する州という事で有名であり、尊厳死に対して肯定的な意見が多数とのことでした。また、病院見学では、質問をしたい事を通訳の方が積極的に受け答えしてくれたため、より深い知識になったと思います。講義の際も、参加メンバーもとても熱心だったため、質疑応答で1時間使った日もあったのが印象的でした。疑問点はその場で解決出来る事が、とてもありがたかったし、現地へ行って学ぶという事の醍醐味だと感じました。現地の日本人看護師との交流やマグネットホスピタルについての講義を聞き、進んだ医療技術であったり、整った体制について学ぶべきところが多いなと感じた反面、アメリカのヘルスケアシステムの講義では良い面だけではないのだと考えさせられました。そして、日本の社会保健の手厚さを感じた場面でもありました。そして、日本人として、国や地域の医療福祉の制度について、私はまだまだ勉強不足であり、それはとてももったいないことだと感じました。ヘルスケアの講義で学んだ通り、アメリカの医療を受けるには経済力が大きく反映され、また保険に入る為には健康である必要があるため、発見が遅れ重篤化するケースがあるということ。また、保険が職場によってことなることから、転職をすると条件によっては今までの医療が受けられないこともあるということも、とても不自由さを感じました。自分のいる環境が当たり前でないこと、まだまだ知らないことがあることが、今回のいちばんの学びでした。そして、尊厳死の講義を受け、自分の死生観・看護観がまた少し明確になってきたと感じます。今後もより理解を深めていきたいです。

以上